


『クレイマー、クレイマー』 原題 <i>Kramer vs. Kramer</i> 1979年		執筆: 清水 純子
制作国	アメリカ	
スタッフ&キャスト (監督、脚本家、俳優、その他)	スタッフ: 監督 & 脚本ロバート・ベントン/ 製作 スタンリー・R・ジャッフェ/ キャスト: ダスティン・ホフマン: テッド・クレイマー/ メリル・ストリープ: ジョアンナ・クレイマー/ ジャスティン・ヘンリー: ビリー・クレイマー/ ジェーン・アレクサンダー: マーガレット・フェルプス / ジョベス・ウィリアムズ: フィリス・バーナード/	
画像		
カラー・モノクロ	カラー	
時間	105分	
ストーリー	<p>ニューヨークの会社インテッド・クレイマーは仕事熱心な男、家事と育児はすべて妻に押し付け、能力ある妻ジョアンナの鬱積した気持ちに気がつかなかった。ある日、妻は突然幼い息子を置いて出て行く。慣れない家事と育児をしなければならなくなったテッドは、仕事と家事の両立に失敗して会社を首になる。次第にテッドは良い父親になっていくが、キャリアを得た妻が一年半ぶりに舞い戻って親権を主張し、裁判になる。判事が母親に同情したためにテッドは敗訴し、息子ビリーと別れることになる。しかし父子の固い絆を見たジョアンナは、子供を引きとることを断念する。</p>	
時代設定	20世紀後半	
場所	ニューヨークのマンハッタン	
社会背景	男女平等による企業の女性雇用の促進、能力ある女性の社会的経済的躍進、女性の家庭からの解放。	
文化的背景	女性の経済的自立に伴うジェンダー・ロールと家族の在り方の変化。	
使用言語	英語	
テーマ	女性の自立に伴う家庭と家族の在り方の変化に関する考察。	
みどころ	経済力を持ちだした女性の生き方の変化、育児が仕事に及ぼす影響、家庭が仕事かの選択、伝統的男女のジェンダー・ロールからの解放。	
印象深いせりふ	<p>JOANNA: (she will be heard) Ted, all my life I'd either been somebody's daughter or somebody's wife, or somebody else's mother. Then all of a sudden, I was a thirty-two-year-old, highly neurotic woman who had just walked out on her husband and child. I went to California because that</p>	

	was about as far away as I could get. Only... I guess it wasn't far enough. So I started going to a shrink. (leaning forward, very sincere) Ted, I've had time to think. I've been through some changes. I've learned a lot about myself.
授業教材用 メリット	家庭における男女のジェンダー・ロールの変化について考えさせる、母子関係と父子関係、夫婦関係を再考させる。家族とはなにか？ 仕事と家庭の比重について、育児のたいへんさについて考えさせる、個を重んじる欧米文化への理解。
授業教材用 デメリット	伝統的家族観の崩壊、母性神話の崩壊、揺れ動く母子関係と男女関係、経済力を持つもののエゴ、ネグレクの母親が養育権を得る理不尽、日本的家族像とのギャップが理解しにくい。
映像入手元	DVD & Blu-ray: ソニー・ピクチャーズエンタテインメント
原作の有無	アヴェリー・コーマン
支持反応	metacritic 評価 (批評家 77、観客 8.7) Rotten Tomatoes 評価 (批評家 88、観客 89)
キーワード	ニューヨーク、マンハッタン、女性の自立、仕事と家庭の両立、育児、養育権、キャリア・ウーマン、離婚、裁判、弁護士、企業、失業。

Copyright © Junko Shimizu All Rights Reserved.

★本サイトに掲載される情報の著作権は、清水純子に帰属します。

許可なく複製、改変、アップロード、掲示、送信、頒布、販売、出版等を禁止します。